エンパワーするNGO YWCA 大阪YWCA 8 2026
http://osaka.ywca.or.jp

YWCA(Young Women's Christian Association)は、キリスト教を基盤に、世界中の女性が言語や文化の壁を越えて力を合わせ、女性の社会参画を進め、人権や健康や環境が守られる平和な世界を実現する国際NGOです。

月桃（げっとう）を揺らす風が運ぶ声
～戦後81年の沖縄から～

平良　いずみ

乳白色をした月桃（げっとう）の花が美しく咲き誇る、慰霊の月を迎えた沖縄。雨上がり、その蕾がきらきらした小さな露をまとう姿を見るたび、私は沖縄戦の語り部だった元白梅学徒の中山きくさんを思い出す。

16歳で看護要員として戦場に駆り出されたきくさんは、野戦病院に配属され、麻酔なしでの手足の切断手術の補助や傷病兵のふん尿の始末をした。雨が降りしきる6月、病院解散命令が出され戦場に放り出された結果、22人もの学友を亡くした。その死を無駄にしないため、半世紀の空白を経て、体験の継承や新基地建設反対を訴え続けた。映像ディレクターである私は、その凛とした姿を記録するためカメラを回した。

3年前の訃報を受け、映像を見返してある事に気づく。きくさんは「感情的になっては伝わらない」と涙を流さずに語る姿勢を、頑なまでに貫いていたのだ。そんな強い信念をもち感情を表に出さなかったきくさんが、語るまでに半世紀を要した理由を明かしてくれたことがある。慰霊祭で子どもを連れて、亡き友人の母親に会うのが辛かったと振り返り、「もし自分の子が生きていたら、かわいい孫がいたんだと思うでしょ。だから語れなかったのよ」と。柔らかな笑顔の裏には、あふれるほどの涙があったことを知ったのだった。

94歳、命尽きるまで戦争体験を語り続けたきくさんが鬼籍に入って3年。今、教育現場では平和教育の萎縮が懸念されている。名護市辺野古での研修旅行中に高校生と船長が亡くなる痛ましい事故の後、文部科学省は高校の教育内容が政治的活動を禁じる教育基本法に違反すると断じた。これを受け、複数の学校から米軍基地には触れず「沖縄戦のことだけを教えてほしい」という要望が出されたことが、沖縄県教職員組合などの会見で公表された。

沖縄戦と現在の基地問題を切り離す風潮には、戦後、沖縄の人々がどんな状況を生き抜いてきたのかを省みる視点が欠けているのではないだろうか。沖縄戦と基地の問題は地続きで不可分だ。過去だけを学び現在に目を瞑ることがあってはならない。

教育現場が再び「物言えぬ現場」とならないために証言をし、平和教育の礎を築いたきくさんの口癖が、月桃の花を揺らす風と共に聞こえてくる。

「思っているだけでは平和は来ない。行動しなさい」

たいら　いずみ
沖縄県出身。1999年沖縄テレビ入社後、ドキュメンタリーを制作。PFASによる水汚染を追った番組『水（みず）どう宝』（2022年）は、ギャラクシー賞優秀賞など受賞多数。映画『ウナイ　透明な闇・PFAS汚染に立ち向かう』を公開中。

女性の居場所

日本YWCAと大阪YWCAの新たな取り組み

セーフスペース・カフェ「ここ*LOCO」（神奈川県平塚市）

今年2月の日本YWCA機関紙に「ここ*LOCOだより」が掲載されました。神奈川県からの委託を受けて、日本YWCAが運営するセーフスペース・カフェ「ここ*LOCO」。居心地よさそうなソファとテーブルにおいしそうな食事の写真、そして温かい文章に魅せられて4月に平塚YWCA会館を訪ねました。3名の利用者と共に手作りの昼食を頂き、その後館内をめぐりました。2階にはシャワー室に洗濯スペース。

そして広い部屋の真ん中に一人用テント。私は訪問前にはカフェ的な居場所を想像していたので「えっ？こんな物が必要なの」と驚きました。説明を聞くと、実際にこの3つの利用率がとても高く、特に一人用テントは安心して心身を休めることができるプライベートゾーンとしてフル回転しているとのこと。ここがまさに困難を抱えた女性の衣食住を満たす場になっていることを実感しました。

利用者の利用のきっかけは、行政からの紹介、SNSやチラシを見て、口コミでと様々で、利用者の中には名前もバックグラウンドも全く分からない人もいるそうです。ここにも「来る人は拒まず、ひとりひとりの意志を尊重する」YWCAらしさが表れていると感じました。

「ここ*LOCO」の一人用テント

大阪YWCAも長い歴史の中で、職業婦人の寄宿舎・家庭婦人のための「もより会」、ハンディキャップのある女性のための「グループパレット」、母子のための「おやこひろば」等様々な女性の居場所を創ってきました。来春には又一つ新しい居場所、若い女性のための自立援助ホームが生まれます。新たな居場所作りにむけて谷川いづみ代表理事のメッセージを紹介します。

大阪YWCAでは今、若い女性のための自立援助ホームの2027年4月開所を目指して準備を進めています。場所は京都府長岡京市です。

自立援助ホームは、貧困や家庭の不和、虐待などさまざまな理由で、親や家族と暮らすことができない15歳から20歳までの若者が、自立をするまでの期間生活をする居場所のことです。すでに京都、福岡、横浜の各YWCAが「カルーナ」という名前でこの自立援助ホームを運営しています。

大阪YWCAの新たな自立援助ホームが、各地のYWCAの働きと繋がり、協力し、助け合いながら、利用者一人ひとりにとって真の「セーフ・スペース」となり、心から「居場所」だと思ってもらえる場になることを祈っています。

（文責　編集部）

ぶどうの木 236

老後の楽しみ

老後は自分の趣味を大切に生きようと考えていた65才を超えた頃、友人がゴスペルのグループに誘ってくれた。もう年だから無理と一度は断ったが、歌うことが大好きで今まで歌った事のないジャンルに興味津津。主を賛美する素敵な歌詞に魅了されて気がつけば早や20年近くも歌い続けている。ゴスペルのレッスンは楽譜がなく、何度も耳で聞いて曲を覚え、配られた歌詞を覚える。一番大変なのは曲も歌詞も暗記して人前で一人で歌えるぐらい完璧さが求められていること。しかもほとんどの曲が英語だ。86才の私にとっては超難しい業。若い熱血指導者に励まされながら何とかカタチにしていく面白さを味わっている。（本気でやればやれるものだなアと）遊ぶこと、食べること、歌うことが大好きな50才から80才のメンバーに刺激されながら、今、12月のライブに向けて悪戦苦闘中。身体だけでなく頭の体操に励んでいる。

（会員　朝川　晃子）

2026 加盟YWCA

中央委員会報告

毎年、年に一度全国のYWCAが集まり今後の活動の方向性を考える会議です

2026年5月30日（土）13時半～16時半に中央委員会が、先立つ5月24日（日）19時～20時20分には全国地域YWCA会長会が、今年はどちらもオンラインで開催された。会長会は、中央委員会のオリエンテーションと、年に一度の会長同士の顔合わせを兼ねて行われた。中央委員会は、樋口さやか日本YWCA会長からのメッセージに始まり、2025年度日本YWCAの各種報告（運営委員会報告、候補者選考委員会報告、会長会報告、理事会関連報告、評議員会報告、決算報告）、2026年度予算・事業計画の提示が行われ、賛成多数で承認された。また、弘前YWCA解散についても正式に承認された。また一つ、地域YWCAが解散された寂しさと共に、大きなYWCAと言われる大阪も決して他人事ではないと、改めて危機感を覚えた。

議事終了後には、「会員組織を考えるワークショップ～フェスタでの"Re Design"に向けて」と題したプログラムが用意されており、日本YWCA「つなぐ委員会」担当運営委員の方のリードで進められ、小さなグループに分かれて他YWCAからの参加者と短い話し合いの時が与えられた。11月に開催されるYWCAフェスタおよび2年に一度の臨時全国会員総会でのプログラムに繋がる内容だった。

フェスタは、11/14（土）・15（日）2日間、ホテルフクラシア大阪ベイで行われる。大阪YWCA会員のみなさんに、是非参加してみていただきたい。（会員　津戸　眞弓）

YWの窓

5・3憲法集会に参加して

「輝け憲法！平和といのちと人権を！5・3おおさか総がかり集会」が、おおさか総がかり行動実行委員会主催で開催された。大阪YWCAからは少なくとも5人が参加した。13時40分～扇町公園で集会、15時15分～2つのコースに分かれて市民パレードが行われた。オープニングには和太鼓演奏、メインスピーチは、元文部科学事務次官　前川喜平さんによる「自由と平和を！憲法の原点に立ち返ろう！」。続いて、市民によるスピーチがあり、現職国会議員や元国会議員の方々からも熱いメッセージが届けられた。集会にもパレードにも大勢の人が参加しており、九条の会や労働組合の幟（のぼり）、いろいろな市民団体や個人の幟が翻り、手作りのプラカードが掲げられ、参加者の憲法を大切にしたい、今の憲法があればこそ守られて来た自由や平和を脅かす今の政治状況を何とかしたい、そんな強い想いが満ちていた。

生憎の雨にも関わらず4500名（主催者発表）が参加した大きな集会だった。右翼の街宣カーからの大音量の妨害音楽と声は聞こえて来たが、取材ヘリコプターの音は全く聞こえなかった。マスコミの言う報道の自由とは何なのか、私たちの知る権利は誰が保証してくれるのか、私たち自身の行動が問われているようにも感じた。

（会員　津戸　眞弓）

Books 編集部文庫

『仏果を得ず』
三浦しおん　双葉文庫

文楽は太夫・三味線・人形使いが一体となって作り上げる舞台。物言わぬ人形の代わりに全ての登場人物を語る太夫を極めるために情熱をかける健の成長を描く青春小説であり、文楽の入門書としても秀逸。現代では不条理だらけの文楽のお話も、その不条理こそが混沌の只中にいる人々の心を打ち共感を呼ぶ。

聖書の言葉

わたしの平安をあなたがたに残して行く。わたしの平安をあなたがたに与える。（ヨハネ14章27節）

FUJIKI 藤木工務店
未来へ――安心を創る
大阪本店　〒541－0051　大阪市中央区備後町1-7-10 ニッセイ備後町ビル1階 TEL06-4964-8700

株式会社 オフィスインテリア
Homepage
本店　〒534-0024　大阪市都島区東野田町4-1-17 日本ロジックス大阪東野田ビル 2F TEL.06-6351-8830(代表)
東京支店　〒130-0024　東京都墨田区菊川1丁目18-1 TEL.03-5875-8315
お客様の事業成長に貢献する設計・デザイン・施工を一貫して計画・管理致します。

大阪YWCAのグループ活動を紹介

点字子ども図書室

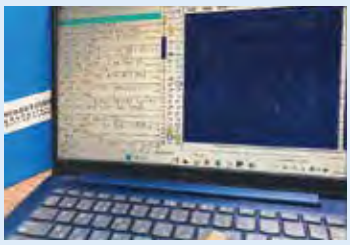
大阪YWCA点字子ども図書室は、1981年9月結成のボランティアグループです。児童書の点訳、点字印刷、製本、全国への郵送による無料貸出をしております。

各自1冊を担当し、家でパソコン入力した点訳データを毎週月曜日の例会に持ち寄り、校正します。例えば、子どもに人気の『ふしぎ駄菓子屋銭天堂』150ページ1巻が点字本では2巻となります。4回の校正を経て、完成まで8ヶ月かかりましたが、統合教育に取り組む小学校へ貸し出され、クラスのお友だちと内容を共有出来たと喜んでもらえました。

最近では、かつての利用者がお母さんとなり、ご自分の晴眼(せいがん)*の子に読み聞かせするためや、年を重ね、以前借りた児童書を懐かしみ、再び利用してくださる方もいます。

点訳は、手間と根気のいる作業ですが、返却時に感想を寄せてもらえると、本の世界を共有出来たようで、やりがいを感じます。興味を持たれた方の来訪をお待ちしています。

＊晴眼(せいがん)：盲目でない人の眼



小学校算数教材の点訳作業中

大阪YWCA専門学校 2026年度春期奨学生

5名の留学生に奨学金を授与しました

王辰晨さん(中国)

【大阪YWCA奨学金】
将来は国際貿易に関わる仕事に就き、日本と中国をつなぐ架け橋のような存在になりたいです。今回奨学金をいただき心より感謝しています。これからも努力を続けていきたいと思います。

薛博阳さん(中国)

【大阪YWCA奨学金】
専門知識の勉強をより深く学ぶために、教育レベルが高く最先端の技術がある日本へ留学することを決めました。将来は国際的なビジネスの場で活躍したいです。私を応援して下さる方々がいることを忘れずこれからも一生懸命にすばらしい成果を出せるように頑張ります。

PHAM THI HUYEN TRANGさん(ベトナム)

【仙台宮城野奨学金】
私が日本に来た理由は新しい国での生活を経験したいこと、新しい言語が学びたいこと、そして良い仕事を見つけたいからです。日本の文化やアニメが大好きです。奨学金をもらえてとてもうれしく幸せでした。生活費の心配が減って助かりました。ありがとうございます。

劉瑞琪さん(中国)

【仙台宮城野奨学金】
昔から日本の文化や暮らし、学問に強く惹かれ、日本へ留学することが夢でした。この度は奨学金をいただけて、信じられないくらい嬉しいです。いつも留学生を支えてくださる大阪YWCAの先生の皆様に心よりお礼を申し上げます。これからも日々頑張ります!

DUONG THI THANH NHANさん(ベトナム)

【鈴木保奨学金】
私は日本に住んでいる親戚から日本についてよく聞いていました。また、映画やアニメも好きで日本に留学することが夢でした。将来は学んだ知識を生かして日本で働きたいです。

国際女性年大阪連絡会主催平和集会

今こそ戦争ではなく平和の準備を

～国際情勢の中で憲法が果たす役割～

8/20（木）
18時半～20時半

@ドーンセンター5階
講師：君島東彦(あきひこ)さん
参加費：1,000円

ご協力ありがとうございます

［26／5／1～26／6／30］敬称略順不同

■賛助費
石井由佳子　小島志佐子　斎藤　和人
芹野　恵美　藤田　恭子　安原みゆき

■会員維持費
秋山　佳子　飯田　雅子　植木　知子
内坂　建　大杉美耶子　大原千恵子
片山　淳子　河合美枝子　川崎　明恵
貴島　照代　金　香百合　纐纈　美香
木幡　弘子　小八木晴代　坂上　信子
阪本　和子　笹部　昌子　鹿野　幸枝
末吉佳世子　鈴木　一代　田口　美智
田中　慶子　田中眞砂子　谷　佐代子
谷川いづみ　辻　加代　都木　惠子
徳広　彩　寺坂阿佐子　中山　光世
西村美恵子　二谷世津子　野上由紀子
原　紀子　春本美恵子　平櫛　紀子
広瀬　圭子　藤岡美智子　藤林　昭子
古河　順子　帆足　文子　堀本千代子
本田　芳子　前川　契子　村川　京子
村松　通子　山髙万寿子　山田　智子
吉田くすほみ　吉村　京子
渡辺　知子

■寄付
千里
二葉幼稚園
グループパレット
西坂　恵美　村井　毅
子ども図書室
春名　洋子　平松　靖子

■募金
7口　135、469円

5月運営委員会報告

【報告】▼グループパレット 4／12（日）万博公園でお花見会開催 13名参加 ▼梅田会員部 4／26（日）気まぐれバザー「日曜市」開催
【協議】 1 4／25開催世界YWCAデー集会ふりかえり 2 クリスマスバザー実施可否検討 3 ピースフェスティバルの実施方向性検討

6月運営委員会報告

【報告】▼財務委員会 2025年度決算書提示 ▼女性エンパワメント部 ユースプログラム参加者同窓会、5／23（土）オンラインで東京・大阪同時開催
【協議】 1 日本YWCA中央委員会からの宿題、11月開催フェスタに向けての提出物内容検討 2 クリスマスバザーに向けて、各委員会等への依頼事項確認

訃報

会員　川畑　幸子 さん
2026年6月逝去(89歳)

発行所　大阪ＹＷＣＡ　編集発行人　津戸　眞弓　〒530-0026 大阪市北区神山町 11-12　TEL 06－6361－0838　FAX06－6361－2997